

ぶらり駅前

東武伊勢崎線 野田線

春日部駅（春日部市）

宿場町 面影残るベッドタウン

子板、麦わら帽子などを一度に見られる。豪華に装飾された羽子板やカラフルな麦わら帽子など、見ていて飽きない。

大宮駅から東武野田線に乗り、住宅が続く街並みを眺めていると、20分余りで駅に着いた。東口の駅前ロータリーで、時計塔と子どもブロンズ像が迎えてくれる。子どもや子ども連れの若い親の姿が目立つ、首都圏のベッドタウンだ。春日部は、幼稚園児が大活躍する人気アニメ「クレヨンしんちゃん」の舞台で、登場する「野原一家」が、市のイベントで住民登録されたこともある。

駅のそばにある1918年創業の武井筆筒（たんす）店に入った。桐たんすは江戸時代からの伝統を誇る春日部の工芸品だ。2代目店主武井利男さん（79）は「堅牢さが特徴。春日部のたんすは持つてみればほかと区別がつく」と胸を張る。西口にまわり、ロータリーの一角で、市物産展示場を眺めた。ガラス越しに、市内の職人が作った桐たんすや桐箱、押し絵羽

近くの和菓子店「ちぐさ」で、羽子板をかたどった「羽子板もなか」、を見つけ、買ってみた。ぎつしり詰まった小豆あんを味わいながら、15分ほど歩くと市郷土資料館に着いた。かつて日光街道の宿場町としてにぎわったという粕壁宿の模型などを展示している。旧日光街道は、百貨店や商店街が並ぶ春日部大通りだが、蔵造りの建物も残されており、宿場町の面影が感じられる。

古利根川に架かる橋の上を公園にした「古利根公園橋」（全長79m）で一休み。公園内に、馬車のレリーフがあった。明治中期、馬で引く「千住馬車鉄道」が、春日部から千住町（東京都足立区）までを結んでいたという。公園から蔵が見えた。宿場町から商工業地、ベッドタウン

へと移り変わる街に、時の流れを感じながら、帰途についた。（春日部支局 八木陽介）

メモ

市物産展示場は、約20年前に市が設置した。市内の桐たんす、

桐箱、羽子板、帽子の4組合、和菓子店、製めん所など12業者が出品している。市郷土資料館の開館時間は、午前9時から午後4時45分。入館無料。月曜と祝日は休館。

市物産展示場は、約20年前に市が設置した。市内の桐たんす、

